

みなと元町 TOWN NEWS



No. 320

発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

新・神戸文化ホール移転で、神戸の音楽・舞台芸術はいずこへ②

資会社ゼンクリエイト 根津昌彦

者・舞台芸術関係者にとって、神戸の都心は関西圏のどの都市の都心部よりも魅力ある文化集積地だと評価するに違いない。

皆さんご存知だろうか。1992年に街びらきした神戸ハーバーランド地区の整備テーマと3つの計画方針を。

▶テーマ:「海につながる文化都心の創造」

▶整備方針:①新しい都市拠点の創造、②複合・多機能都市としての整備、③環境を活かしたまちづくり

整備方針のうちの1つ「①新しい都心拠点の創造」には、「三宮都心への一点集中型の都市構造から、ハーバーランド周辺における都市機能の再生を図り、三宮(中央都市軸、国際文化軸)から神戸(神戸文化軸)という広域的都心構造を目指す」ということが明記されている。

この「神戸文化軸」という、神戸の都市づくり、まちづくりの基本理念を、今回の新・神戸文化ホールの三宮移転によって、決して退化させたり風化させたりしてはならないと強く思っている。神戸文化軸には、ハーバーランド地区の整備に

よって、海の手神戸新聞松方ホールに始まり、湊川神社、みどり彫刻のみち、中央体育館、神戸文化ホール、中央図書館、大倉山公園という、文字通りの文化軸が完成した。神戸市民にとって、誇るべきこの都市軸により磨きかけられるよう、今後大倉山周辺の再整備について市民を巻き込んだ議論の場を設けていただきたいと切望する。

三宮駅前ゾーンおよび市庁舎ゾーンの再整備に「音楽・舞台芸術」の要素が加わることは、神戸の薫りが一層魅力的なものになるだけでなく、三宮クロススクエアの整備と相まって新・神戸文化ホール群が整備されることによって、主体的な市民活動・芸術活動の創造と発表の場が得られ、間違いなく他の都市では味わうことのできない「都心の顔」が創られるものと大いに期待している。だからこそ、「文化中心」が遷都するのではなく、これまでの神戸文化軸に加えて、フラワーロード沿道が「水と緑の新・神戸文化軸」となって、都心の厚みが増すような施策展開を望みたい。



2月のある平日の朝、みどりと彫刻のみちより、神戸文化ホールを望む。なんと清々しいことか。

2019年2月号続きとしてこのタイトルで書かせていただくが、前回の記事の内容やタイトルが、元町でお商売をされている方々や神戸市職員の多くの目に留まり、私の耳にダイレクトに反響が届いたことが、少々の驚きとともに、皆さんの強い関心事なんだということを改めて知る結果となったことを、まず記しておく。

前稿でお伝えした通り、大倉山に現在ある神戸文化ホール(大ホール及び中ホール)は、三宮再整備構想のリーディングプロジェクトであるサンパル・中央区役所などを含んだ雲井通5丁目再開発で大ホールが2025年度末完成・供用開始予定で整備され、市役所新2号館再整備の中で音楽専用ホールが2026年度以降に完成・供用開始を目指すこととなった。さらには、2026年度以降の整備工事着手が神戸市によって想定されている雲井通6丁目再開発で多目的な中ホールを整備するという方針までが、「新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会」の中で確認された。併せて、雲井通6丁目再開発で新たな多目的中ホールが完成するまでの間は、現在の大倉山の神戸文化中ホールは残すことを神戸市側は明言した。

いまから7年後、神戸市が想定している通りに事が運べば、三宮では、2000席の神戸こくさいホール、1800席の新・神戸文化ホール大ホール、700~900席の音楽専用ホールが稼働し、また神戸文化軸上には、大倉山に900席の神戸文化ホール中ホール、ハーバーランドに700席の神戸新聞松方ホールが少なくとも稼働した状態が生まれることとなる。現在の神戸文化ホール大ホールが、7年後までに民間事業者の手によってホール施設として継続される青写真が描けたとすれば、プロアマを問わず音楽関係

元町・夢街道②

書店の話(22)

兵庫県書籍雑誌商組合③

岩田 照彦

熊谷幸介を組長に発足した組合は、熊谷組長が亡くなったあと柏佐一郎が引き継ぎ、業務の深化に応じるため明治四十一年から石丸甚八を、四十二年からは川瀬光吉を副組長に招き、柏組長を含む三名の元町商店主が組合を牽引することになる。

組合事業は、定価販売の励行と、仕入れ価格の低減が大きな課題になっていた。大正六年九月の会合では、特殊の品を除き書籍雑誌は定価又は特価で販売すること、大量購入の団体または一時に金五円以上の買い入れに対しては(原書、興業、法律、経済、医書、特価品を除く)五歩以内の割引をきめる。ただし雑誌は、団体又は一時に多数買い入れにも絶対割引しない、とした。十一月には、誓文払い中の標準割引率を、普通書籍は定価の一割以内、丸善、有斐閣、巖松堂等の工業、医書、法律、経済書は五歩以内、特価品、雑誌、教科書は無割引、端本、朽損本、特別見切品は各店随意などときめている。

大正十三年九月にも誓文払い時の申しあわせ事項が記録されていた。期間は十一月十六日から二十三日までの八日間で、日記類は五歩引き、新橋堂カルタは一日二十銭。大正十四年二月の総会では、日記は、出版社と取次者との協定があり、値引きせざることもなっているが、一定期間経過すれば

割引販売は自由で、本県下では二月一日から値引き販売差し支えなしときめ、誦本は書籍とみなして割引販売できない、としている。同年五月には、組合から全国組合連合会への提案事項として、ゾッキ物(見切り品)は、発行所から直接市場又は取扱者に売却くときは奥付に捺印しているが、最近、古品店や露店で販売されているものは捺印がなく、取締つていただきたい。大正十五年八月には、商店の年の売り出し時、福引券を提供するところがあると聞くが、組合規約違反となるので絶対提供しないように、という申し合わせがみられる。

国鉄の運賃負担も書店にとって大きな問題だった。大正十五年十二月、柏は、全国書籍雑誌商組合連合会と協調し、全国各地組合から請願書をまとめて鉄道省に提出した。新聞、雑誌は除外例として賃率を低減、しかも全国均一運賃に対し、書籍は生じる運賃に困っている。国民の思想善導と知識発達のためで大きな使命をもつ書籍に高率の運賃を科せられるのは文明国として遺憾、というものだ。

こうした活動を進めるために組合は、組長、副組長のほか、各地区からの委員選出を前提に加入調査委員、販売調査委員を設けたほか、神戸市内での会合に加え、地域での会合も開き、会員の声を吸いあげている。ほとんど違反の声を聞かず、定価販売を全国に率先励行したのが兵庫県書籍雑誌商組合の力だった。

栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は3月8日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(神戸市住宅都市局)田中淳也、(兵庫県信用組合)田中祥平・宮本善弘・竹村空朗・平野佳奈、(㈱広島銀行)平田彩乃、(パナソニックホームズ㈱)宮崎哲弘・鈴木京子、(㈱神明ロジスティクス)流尚久、(神明倉庫)藤尾憲弘・米澤彩香、(佐野運輸㈱)高寺宏聡・北島幸宏、(㈱イーエスプランニング)松坂仁美、(三鈴マシナリー㈱)田中梨沙、(大一産業株式会社)蓮池秀樹、(まちづくり会館)小椋辰海、(新光明㈱)西村友博・大森貴美子、(佐田野不動産㈱)佐田野宏之以上、20名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



編集後記

元町映画館で、韓国映画「ドキュメンタリー 白」をみた。脱北してソウル市の公務員になっていた兄と一緒に暮らしていたと、北朝鮮から逃れてきた妹は、北朝鮮から尋問を受け、兄さんと一緒に暮らせるようにしてやる、と誘われ嘘の陳述をする。スパイとする証拠書類にも不審を抱いて動き出したのが、韓国の公営放送局MBCを解雇されたチェ・スンホ。同氏の調査により最高裁で二人は無罪となる。カメラはまた、やはり北朝鮮のスパイとされて長年、拘留された韓国人を大阪にたずね、韓国で誤審の恨みを晴らさないうか、と誘うが、彼はただ首を横に振るだけ。車で去る一行を無言で見送っている。

李明博(イ・ミョンバク)大統領時代の話とされる。

神戸元町商店街 楽市楽座 情報 4月

◇元町1番街商店街振興組合 TEL.331-7850

占い市 4月10日(水)12時~17時
水曜市 4月17日(水)11時~19時

◇元町5丁目商店街振興組合 TEL.341-6819

第31回子ども絵画コンクール展示
4月27日(土)~5月6日(月)11時~18時

◇元町6丁目商店街振興組合 TEL.367-5477

モトロク市 4月6日(土)11時~17時
(毎月第1土曜日開催)

◇風月堂ホール(有料) TEL.321-5555

もどまち密着「恋雑亭」 4月10日(水)
桂 小鯛 笑福亭 由瓶 月亭 文都
笑福亭 仁扇 明石家のんき 桂 雀々
前売券は3月11日より風月堂で発売

◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL.361-4523

2019年4月より休館中(改修工事の為)

海という名の本屋が消えた (65)

平野義昌

がしんたれ・菊田一夫の神戸(1)

昭和戦前戦後に活躍した劇作家・菊田一夫(1908～1973年、本名数男)が自伝的小説『がしんたれ』で、神戸丁稚奉公時代を書いている。三菱川崎争議の大デモ行進(1921年、大正10年7月10日)の様子もある。菊田に記憶違いがあることをこわっておく。〈神戸の川崎造船所の争議といえ、日本でも最大のストライキとして有名である。十万に近い労働者は示威行列の体列を組み、神戸の街々を練り歩いたが、なかでも、元町通りを通った、その行列は立派だった。／行列の先登には賀川豊彦が馬に乗って指揮をとり、向こう鉢巻をした何万の職工は、一糸乱れぬ隊列で労働歌を歌い、何百流からの白い吹き流しをかついで歩いた。(後略)』^{註1}

7.10デモ時、賀川は徒歩だったし、元町方面に行っておらず、別動隊が元町通南側の栄町通を歩いた。参加者は本隊合わせて3万人超だった。労働者と賀川が元町商店街を通ったのは、7.29の神社祈願の行進である。

菊田の神戸生活は1920(大正9)年から約6年。27(昭和2)年上京、印刷工をしながら詩作、サトウハチローに師事した。彼の紹介で浅草の劇団芸芸部に入り、30(昭和5)年、赤穂義士パロディ脚本『阿呆疑士迷々傳』でデビューする。その後、榎本健一や古川ロッパの座付き作家を勤めた。喜劇、人情劇が得意だが、戦中は戦争高揚劇も書かざるを得なかった。戦後、ラジオ劇『鐘の鳴る丘』(47～50年)、『君の名は』(52～54年)で人気を博す。後者は映画、テレビドラマにもなった。55(昭和30)年、東宝の演劇担当重役に招かれ、製作業務も勤めた。「かめつひ奴」「放浪記」などをヒットさせ、多くの俳優を育成した。63(昭和38)年「マイ・フェア・レディ」でミュージカルに進出。75(昭和50)年、その功績を記念して菊田一夫演劇賞が創設されている。

「がしんたれ」とは大阪ことばで、能なし・役立たずという蔑称。小説の主人公・和吉=菊田は不幸な生い立ち、あちこち養子に出され台湾で育った。養母が交際した男性・金森は詐欺師だった。和吉を内地の商業学校に進学させると騙し、大阪の薬種問屋に5年間100円の契約で奉公させた。そのうえ神戸の株屋・源さんに賭博の借金150円があり、和吉を売っていた。奉公先では同名の者がいたので和吉は「かずきち」と呼ばれる。勉強はできたが、身体が小さく、運動はダメ、手先不器用、引っ込み思案、忙しい商店で要領よく立ち回れる少年ではなかった。台湾では標準語だったから早口の大坂弁や店名の略称がわからない、難読地名で迷い、競争のような食事を食いはぐれる。番頭や先輩丁稚に「がしんたれ」と叱られ、殴られる。それでも和吉は働きながら学校に行かせてもらえると思っている。辛い奉公暮らしのなか、配達途中に神戸の女学生・尾形美也子に出会う。彼女は高飛車で意地悪を言いながら優しいことばもかけてくれる。叔父が経営する菜屋に遊びに来ていて、配達の菜壺を壊してしまった和吉をかばってくれた。和吉は彼女に進学希望を話した。

〈和吉に、詩や歌を作るすべを教え、そして気の弱い彼に初恋してみた、ものかない気持ちをおまわってくれたのは、その娘である。』^{註1}

店で金森の和吉と重契約が発覚、さらに和吉がトランプを起こす。源さんが和吉を連れ出すために5円

与えたところ、店主が大金だから預かると取り上げた。和吉は参考書を買うため取り戻そうと金庫破りを企て、警察沙汰になった。結局4ヵ月でクビになる。源さんが後の面倒を見てくれ、以前勤めていた元町の美術商・珍物屋商会(実名は珍産商会)に連れて行く。〈神戸元町通り五丁目の珍産商会という、生花の道具とか、床の間の置物とかを売る小売店に、私が丁稚奉公したのは、数え年十二歳の、大正九年十一月十八日の「誓文払い」の最中であつた。』^{註2}

「誓文払い」とは11月中旬1週間の残品整理、蔵ざらえの大安売りである。早朝から客が詰めかける。〈その一週間は、元町通りのどの小売店も、戸外に面した陳列棚の前面に、低い脚立をならべ、その上に、雨戸を横たえ、シーツをかぶせて、それを特設の売り場として大特価品を並べ、店員たちは女中に借りた赤いじゅばんを着て、たすきをかけ、顔には白粉を塗って、お祭り声をあげる。／「さあ、買いなはれ買いなはれ……今年買いそのうたらもう来年まで、こんな安い物はおまへんで」／と、まるで押し寿司のようにもみ合いへし合いで通る買物客に呼びかけるのである。』^{註1}

誓文払いがすんで、源さんが和吉の様子を見に来る。店主・横山は「よう働きよるで」と感心した。源さんが年奉公の前払い金を要求すると、横山は女郎屋みたいな制度はやりたくないから毎月払いにする、と言う。源さんが改めて請求に来ると、小さな子供の身代金を取るような哀れなことをするな、金は和吉に渡す、と説教した。源さんは横山に頭が上がりず、直接和吉から給料を取り上げようとした。ところが、給料日前に和吉は先輩丁稚・重吉と新開地に遊びに行き、お金を立て替えてもらっていた。和吉の手持ちは16銭、源さんは給料50銭と知って、取り立てを諦めた。金森と比べるとすごくイイ奴である。菊田の評伝を書いた小幡欣治は、菊田作品にこの源さんが活かされていると語る。

〈……大きなことを言うわりには度胸がなくて、一流の悪党になれないのか彼の「ペテン師」ものの特徴である。気が弱くて、どこか憎めない小悪党の原型を、少年の菊田はしっかり見ていたのだろう。』^{註3}

横山は銀行員を辞め美術商を開業した。その人柄で店の雰囲気良く、奉公人たちも親切だった。〈……元町通五丁目山側の、右隣が善福寺という寺の入口、左隣が末積鏡店、真向かいが牧野呉服店に森川眼鏡店という向こう三軒両隣をひかえた珍物屋商会であつた。』^{註1}、引用者補註

珍物屋商会は中国、台湾、北海道の珍しい物産を専門に売る店として出発し、茶棚や机、花生け、床の間の置物、香炉など美術品に手を広げた。大繁盛とは言えないが、華族、実業家、弁護士など良い顧客を抱えていた。そのなかに船会社経営者「尾形」があった。

さて、元町商店街は誓文払いに続いて年末大売り出しになる。〈元町通一丁目から六丁目まで、それぞれの境目の南と北の入口に紅白のだんだらを巻きつけた柱と杉葉のアーチが立って、そこに年末大売出し、元町通商店連合会という文字が掲げられる日がくると、元町の通り筋の店々は、いっせいに年の市大売出しとなる。』^{註1}

誓文払いより人出は少なく静かだが、売り上げははるかに多い。珍物屋商会も表に台を出し、家族総出で店番をする。「元町小町」と評判の長女目当てに学生

も買物に来る。上品な母娘がやってくる。美也子との再会である。和吉は注文品を奥平野(現在兵庫区)の尾形家に配達に行き、美也子と受験の話になる。彼女は進学を諦めていた和吉を叱り励した。和吉は勉強を再開する。

重吉は和吉の勉強を応援し、近所の丁稚たちにも和吉の進学を話していた。本屋=日東書店(実名は日東館書林)の丁稚・正吉が自分の給料で参考書を買ってくれた。彼は被差別部落出身、貧しいため進学できなかった。〈日東書店というのは、和吉の奉公している珍物屋商会と同じ並びの元町通り五丁目にある本屋で、珍物屋商会とは善福寺という寺の入口をへだてての隣同士である。(中略)／和吉に『中等学校受験虎の巻』を寄贈してくれたのは正吉である。』^{註1}

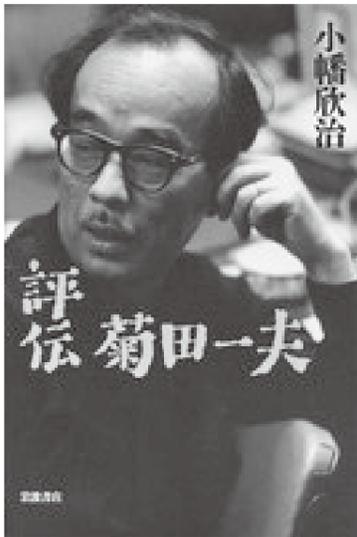
春になり受験日が迫ってきた。和吉はまだ金森を信じ、港で台湾からの定期船を待つのも儂いこと。今度こそ諦めねばならなかった。

和吉は横山に県立商業学校志望を打ち明けた。横山は、合格できたとしても学費は子供には無理、と論じ、夜学で英語を習うなら通わせてやる、と提案する。外国人客が増えて、既に番頭・鶴吉が通っていた。

〈主人のいう夜学とは元町通り四丁目と五丁目の中間の大道路を山手にむかって登る右側の二股路地入口のある神戸市立商科実業学校のことである。昼間は神戸市立女子商業学校。女子のための簿記と計理の学校で、夜が男子生徒のための英会話と簿記、珠算の学校である。』^{註1}

和吉はとにかく上級学校に進学して役人にならなかった、偉くなりたかった。県立商業が無理なら仕事を覚えて商売人になろう、英語も習得しよう、と方針を変えた。重吉も一緒に入学するが、1ヵ月で辞めた。〈和吉はここで、いままでの漠然とした考えを捨てて、自分は神戸という都市で商人になるのだ、という目標をはっきり定めた。』^{註1}

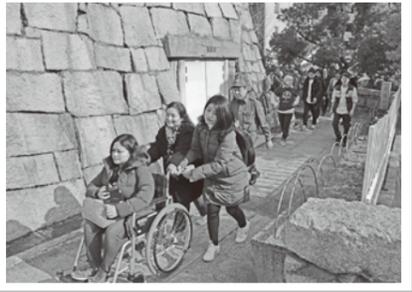
註1 菊田一夫『がしんたれ』角川文庫 1961年
 註2 菊田一夫『神戸元町の思い出』(『こうべ元町100年』元町地域PR委員会、1971年所収)
 註3 写真 小幡欣治『評伝 菊田一夫』岩波書店 2008年
 引用者補註 商店は実名だが、寺は菊田の記憶違いで、極楽寺。善福寺は鉄道敷設のため1871(明治4)年北側の下山手通に移転、現在「西本願寺神戸別院」(通称モダン寺)。極楽寺(真言宗)も1922(大正11)年頃に須磨と布引に分離移転した。



出来事ファイル (No.19-4)

津波避難訓練

元町商店街防災懇談会は3月1日(金)9時から、恒例の津波避難訓練を実施した。津波避難訓練の放送確認後の9時5分、参加者は4丁目商店街の光明堂前に集合。到着した人から煙体験、水消火訓練、三角巾取扱い訓練などを実施した後、全員そろって車椅子の人たちとともに花隈公園へ避難。花隈公園では中央消防署長の避難訓練に対する全体講評、連合会長のあいさつを聞き解散した。



無料見学会開催中

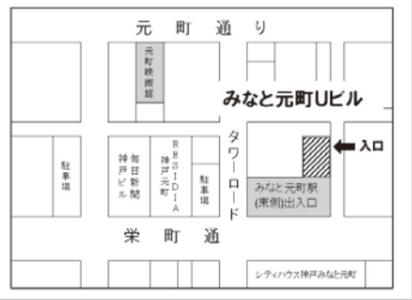
NPO法人あいあいネット神戸では、65歳以上の方であればどなたでも参加できる集い「あいあいの会」を土曜日と水曜日、10時～15時まで、西川ビル1階の神戸街角サロンで開いている。手づくりの昼ごはんやケーキにコーヒー、健康で過ごすための看護師による介護予防の話や手芸、生け花、習字、歌、季節行事など。一度、のぞいてみられませんか。(連絡先:078-380-3302木村まで)



投票所が変わります

これまで、みなと元町タウン協議会エリアの投票所として使用していた「こうべまちづくり会館」が、4月から、改修工事のため臨時休館します。

このため、4月7日執行予定の統一地方選挙の際には「みなと元町Uビル(下記地図参照)」に投票所を開設します。(神戸市中央区選挙管理委員会)



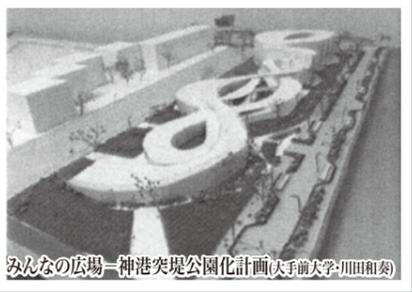
酒米王国・兵庫のたのしみ

2月22日(金)・23日(土)の2日間にわたり、元町3丁目商店街で「酒米で味わう地酒のみくらべ」イベントが開かれた。金曜日は夕方16時30分、土曜日は14時からの開店。湯豆腐や田楽、焼き鳥など、つまみのコーナーにはテーブルと椅子も準備され、お酒に目のない人たちが、早い時間から兵庫県産の銘酒を飲み比べ、のど越しを楽しんだ。



ひよっこ展

3月2日(土)・3日の両日、兵庫県建築学生による卒業設計展が元町5丁目商店街で開かれた。明石工業高等専門学校から16名、大手前大学から5名、武庫川女子大学3名。あわせて24名の作品が商店街の中央部に並べられた。タワーマンションの新たな活用、まちなか計画もえん、みんなの広場(神港突堤公園化計画)、神戸市塩屋ジェームス山ホテルなどユニークな発想の作品などなど。



江口寿史イラストレーション展

週刊少年ジャンプ「すすめ!パイレーツ」で軽快なギャグ漫画家としてデビュー、美少年を主人公にした「ストップ!ひばりくん」で大ブレイクの江口寿史。本展は「彼女」と題して、40年追い求めてきた女性の美を、新作を含む約300点のイラスト作品で紹介する最新の江口寿史ワールドです。

鑑賞ご希望の方は、住所、氏名、年齢、本紙へのひと言を添えて編集部まで。先着順で5組の方に招待券をお送りします。

期間: 4月6日(土)～5月19日(日)
 会場: 明石市立文化博物館
 電話: 078-918-5400



Shiggy Jr.『ALL ABOUT POP』(通常盤) CDジャケット(2016)©2019 Eguchi Hisashi

まちづくり会館おやすみ

こうべまちづくり会館は内部工事のため4月1日から9月30日まで利用できなくなる。1階は、古書店用のレイアウトと市民トイレをユニバーサル仕様に改修、4階図書室は、一部の図書を除き事務室で、5階事務室は新規事業に取り組む若者向けの貸しオフィスに。他は従来通り。



グリーン作戦

3月6日(水)12時から12時30分まで、エスタシオン・デ・神戸から13名、ネットヨタ兵庫(株)から18名、元町通7丁目自治会から2名、3つのチームに分かれて神戸駅東地区グリーン作戦を実施した。



五大浮世絵師展

浮世絵が最も爛熟した黄金期、美人画・役者絵・風景画など、さまざまなジャンルで人気を博した歌麿、写楽、北斎、広重の4大スターに加え、奇想天外なアイデアと確実なデッサン力を兼ね備えて人気の高い歌川国芳、浮世絵の頂点を極めた5人の絵師の展覧会が開催されます。

期間: 4月20日(土)～6月16日(日)
 会場: 兵庫県立歴史博物館(079-288-9011)



葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」1831年頃